

令和5年度

第1回 那須町総合教育会議 会議録

那須町教育委員会

令和5年度 第1回那須町総合教育会議録

令和5年6月13日13時30分から、令和5年度第1回那須町総合教育会議が開催され、その結果は次のとおりであります。

1 本会議の出席者は次のとおりであります。

町長部局

町長	平山 幸宏
総務課長	池沢 秀勝
企画政策課長	鬼澤 努

教育委員会

教育長	平久井好一
教育委員（教育長職務代理者）	大森源一郎
教育委員	菊地 昭一
教育委員	菊地 厚子
教育委員	金田裕美子
学校教育課長	佐藤 英樹
生涯学習課長	島村 育男
こども未来課長	大森 貴之
学校教育課長補佐	赤羽根初美
こども未来課長補佐	君島 絹代
こども未来課指導主事	深沢 智美

黒田原小学校

校長	内村 壮一
教頭	松本 昌之

1 本会議の議事は次のとおりであります。

協議事項

（1）幼保小中一貫教育とインクルーシブ教育について

こども未来課	深沢指導主事
黒田原小学校	内村校長

（2）その他

1 開 会

佐藤学校教育課長

定刻となりましたので、ただ今より令和5年度第1回那須町総合教育会議を開催いたします。はじめに、平山町長よりご挨拶をお願いいたします。

2 あいさつ（平山町長）

皆さん、こんにちは。

教育委員の皆様には日頃から、本町の教育行政の推進にご尽力を賜りまして、この場を借りてお礼を申し上げます。

また、本日は令和5年度第1回那須町総合教育会議を開催したところ、ご多用にもかかわらず、ご出席をいただきまして重ねてお礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が5月6日から国の感染症法上の位置づけが二類から五類に変更となり、一律に協力要請を求める基本的対処方針が廃止されました。皆様におかれましては、これまで感染症対策にご協力いただきまして、感謝を申し上げます。現在においても新型コロナウイルスの存在自体がなくなったわけではございませんので、今後とも実質的な感染対策を一人一人が継続いただけますようお願いを申し上げるところでございます。

コロナ禍で中止を余儀なくされておりました那須町の行事でございますけれども、今年度は九尾祭りなどの町のイベントにつきましては、復活する予定で準備を進めているところでございます。町民の皆さん、そして那須が好きで足を運んでいただいているお客様に、那須の魅力を存分に堪能していただけるよう、取り組んで参りたいと思っておりますので、委員の皆様方にもご協力とお願いを申し上げたいと思っております。

さて、本日は幼保小中一貫教育とインクルーシブ教育について忌憚のない意見交換を行ないながら、町長部局と教育委員会が共通の認識をもって、那須町の教育をより良い方向に進めていければと思っておりますので、どうぞ、よろしくようお願い申し上げます。簡単ではございますが挨拶に代えさせていただきます。

3 協議事項

佐藤学校教育課長

それでは、協議事項に移らせていただきます。

那須町総合教育会議設置要綱第4条第1項により、町長を議長として進めさせていただきます。

議長：平山町長

それでは、本会議を主宰する立場から議長を務めさせていただきます。

円滑な議事運営に努めたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

はじめに、(1) 幼保小中一貫教育とインクルーシブ教育について、こども未来課 深沢指導主事と、黒田原小学校内村校長から説明をいただいた後に、4月に入学致しました、一年生の授業の様子をご覧いただく予定となっております。また、その後に皆様からのご意見を頂

戴したいと思います。

では始めに、幼保小中一貫教育とインクルーシブ教育について、幼児教育と小学校教育をつなぐ取り組みについて、深沢先生からご説明お願いいたします。

深沢指導主事

— 資料に添って説明 —

- ・幼保小中連絡協議会について
- ・幼保小中一貫教育推進委員会について
- ・保護者が安心できる就学相談について
- ・就学児検診について
- ・障害児相談支援事業について
- ・通級指導教室について
- ・特別支援学級について
- ・弱視学級新設までの経過について

議長：平山町長

深沢先生ありがとうございました。

次に実際に保育園や幼稚園から子どもたちを受け入れている学校での取り組みについて、内村校長からご説明をお願いいたします。

内村校長

— 資料に添って説明 —

- ・学校でのインクルーシブ教育について
- ・特別支援学級の状況について
- ・盲学校との連携について
- ・地域ボランティアとの連携について

議長：平山町長

内村校長ありがとうございました。それではこれより1年生の授業の様子をご覧ください。参観は、2グループに分かれますので名簿に記載のグループでのご移動をお願いいたします。

Aグループの皆さまは、内村校長がご案内いたします。

Bグループの皆さまは、松本教頭がご案内いたします。

内村校長、松本教頭、どうぞよろしくをお願いいたします。

～移動・視察～

議長：平山町長

皆さん、お疲れ様でした。

それではご意見、ご感想などがございましたらお願いいたします。

大森委員

1年生の授業を見て、自分の孫を見ているようでした。しっかり勉強しており、出来ているなど感じました。校長先生のお話を聞いて、インクルーシブ教育についてよく分かりました。ありがとうございました。

教育現場にいる先生方は、ものすごく大変だろうと思います。昔の教育と、大きく変化しているということも理解できました。特に、幼稚園・保育園と小学校のギャップというのは相当あると思います。小学校から、中学校に行くギャップもよく言われますけれども、それ以上に幼稚園・保育園から小学校に入るギャップというのは大きいなど、私はそう感じています。発達評価シートについても説明がありましたが、とても良いことだと思います。それと同時に、幼稚園の先生方、保育園の先生方とそれから一年生を担当する先生方の連携も私は必要なのかなと思いました。一つお聞きしたいのですが、こども未来課が学校教育課に入ってきたことで、変化はありましたか？

大森こども未来課長

こども未来課に深沢先生が指導主事として入っていただいたことによって、直接、保育園にも積極的に足を運んでもらうことで情報収集や、それぞれの家庭の状況に合わせた保護者とのきめ細かな就学相談ができています。

今回のインクルーシブ教育がここまでスムーズにできましたのも、こども未来課が教育委員会に移管されたことによる成果だと思います。

議長：平山町長

はい、わかりました。ありがとうございます。

学校教育課としては、ご意見はありますか？

佐藤学校教育課長

学校教育課としましても、弱視学級新設に向けて、昨年度から盲学校へ伺い施設整備面やソフト面において情報の収集や情報交換などを行い盲学校との連携を図りながら進めてきました。

議長：平山町長

ありがとうございます。他にご意見はございませんか。

菊地（昭）委員

説明を聴いて、保護者の立場からすると、保護者に寄り添って対応していることに對し本当にありがたいと感じました。

菊地（厚）委員

共生社会の色々な違いを全部一つにまとめた共生、という形で捉えていくと、黒田原小学校は本当に素晴らしい共生社会の見本のような感じに思えて、改めてすごいと感じました。

インクルーシブという言葉が最近出てきましたけど、実は私たちの小さい頃も、私が先生になりたてだった頃も、実はありました。いろんな障害を持った子、いろんな特性を持った子どもたちの特性を認めて理解しようとする気持ちがより深まっていくのが、これから目指す共生社会なのかなと改めて感じました。

保護者やお子さんの気持ち、将来性などを含めて、たくさんの人たちがその人のために考えていく支援の流れ、支援の仕組みが、出来上がってきたことは素晴らしいことであると思います。これからも一人一人に寄り添った、きめ細かい支援が那須町で出来ていけたら素晴らしいと思いました。ありがとうございました。

金田委員

今日はインクルーシブ教育の現場を見学させていただきました。ありがとうございます。本日の説明から、わが子が就学するときのことを少し思い出しました。

私の息子も娘も通級クラスを経験しておりまして、息子が小学校に上がる前、この就学前の診断の時に、今のような体制ができていたら、もっと不安はなかったのかなと思います。今この流れが出来ているので、発達障害のお子さんや、グレーゾーンで悩んでいる保護者の方にとったら、すごく心丈夫な取り組みなのだろうなと思いました。

今でも忘れられませんが、就学前診断の際に保健師から、息子が通級クラスになるかもしれないと申し訳なさそうに言われたことがすごく心に引っ掛かっています。親子で、日本ってこういうところなのだと思ったんです。差別ともなんともいえない、みんな違う＝かわいそう、そういった概念が定着している国だなと思いました。

一方、アメリカで生活していた時、アメリカの小学校はアメリカが元々移民の国なので、ずっとインクルーシブ教育がなされています。教室の中には椅子がなかったり、寝そべっている子もいれば、ちゃんと座っている子もいたり。その中でどういう風に違うのだろうというプレゼンを子どもたちがするわけです。そのぐらい気負わない、インクルーシブ教育がこの黒田原小学校ではスタートを切ったばかりで、少し肩に力が入っている状態かなと思いますけれど、子ども達が、本当に普通に、特別じゃない、みんな違っていい、というそういう文言もないぐらい普通に馴染めるようなインクルーシブ教育がこれからはされるのは、教育現場の先生方もすごく労力があると思います。1クラス2人体制の先生たちの体制や、保健師さんも町に2人しかいないとなると持続可能なインクルーシブ教育と捉えた時には5人ぐらいの方が良いと思います。持続可能にするためには、これからどういう人材を確保して

いったらいいのか、町をあげて考えていくべきものなのかなと思いました。以上です。ありがとうございます。

議長：平山町長

今、金田委員から、保健師さんの話が出ましたが、実は那須町であと2名ほど増やしたいと考えているのですが、募集してもなかなか集まらないのが現状でございます。もし今日です、皆さんの知っている方で病院に勤めていた方で保健師の資格を持っている方や、コロナ禍で辞めしまった、結婚して遠ざかっている方などおりましたら、採用したいと考えておりますので、もし知り合いの方おりましたらぜひ言葉掛け頂きますようお願いいたします。

インクルーシブ教育について説明をいただいて、学校での取り組み状況や教育委員会との連携など改めて確認することができました。もっと多くの方に知ってもらえたら良いと思いました。

その他、ご意見はございませんか。

鬼澤企画政策課長

教育委員会を離れて一年と三ヶ月になり、久しぶりに学校を見学させていただいて懐かしいと思いました。深沢先生の説明を聞いて、教育委員会にこども未来課が入って良かったと感じました。保護者の考えていることが、昔のイメージと今のイメージで違うという点に気づいて、本当にその子の支援としてどういったことが一番いいのかということを考えられる体制が出来てきているのが、すごくよかったな、動き出しているなど感じました。

一年生を見学させていただいた際、タブレットを普通に使っている様子を見させていただくことで、すごいなと改めて思いました。ありがとうございました。

池沢総務課長

一年生の教室でタブレットを普通に使いこなしていることにびっくりしました。それと深沢先生と内村校長先生の話、大変ありがとうございました。私も色々勉強になりました。障害の有無に関わらず、子ども達の成長のためにも、色々本気になって対応していかないとけないと改めて今日勉強させていただきました。大変ありがとうございました。

島村生涯学習課長

今日は久々に学校見学をさせて頂きました。ありがとうございました。

今日は本当に素敵なお話と申しますか、障害を持たれていることを分け隔たりなく、子どもたちが触れ合うことは本当に非常に大切なことだということを改めて感じました。金田委員がおっしゃる通り、これが特別なことで、素晴らしいことではなくて、当たり前とする意識に変わっていく世の中になっていけばいいのかなと思いました。

内村校長

弱視学級新設に向けて児童の保護者と面談する中で、実際に教室になる場所を見ていた際に、私は当然のように、廊下に出ている机や消毒液など、学校での生活に障害になると思われるものは全部取っ払った方が良いかなと思い、保護者に伝えたところ、「このままでいいです。いろいろな障害、ハザードがあった方が、ぶつかって回避する技、術を覚えていくから、このままでいいです。」と返答がありました。

私は目からウロコでした。

今までの経験などを経ていつの間にか身に付いた考え方や感覚を、自分の中で一枚一枚取り外しているような感覚であります。ありがとうございました。

松本教頭

今回受け入れるにあたって何の迷いもなかったというのは、元々校長が持っている思想でこそその意見だということを感じています。様々なお子さんがいることで、自然に学びが生まれていく、我々も学ばせていただいているということです。

職員と、保護者、子ども達と共に学び合い、より良い学校にしていきたいと思います。

議長：平山町長

その他、ご意見はありますか。

無いようですので以上で議題に対する協議は終了致します。貴重なお時間をいただき、充実した会議となりましたことに、お礼を申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

4 その他

議長：平山町長

それでは、その他に移りますが皆様から何かございますか。

島村生涯学習課長

では一点だけいいでしょうか。お配りした資料についてご説明いたします。「Let's Swing!! ブラックボトムブラスバンド演奏会」こちら今月の6月21日水曜日午前10時から、町文化センター大ホールで町内の小学四年生から六年生を対象に、移動音楽教室の開催を計画しております。教育委員の皆様も、もしお時間とご都合がよろしければ、ご出席につきましてお願いします。以上です、ありがとうございます。

5 閉 会

議長：平山町長

それでは、皆さん大変ありがとうございました。最後に閉会にあたりまして、教育委員を代表して平久井教育長よりご挨拶をいただきます。

平久井教育長

六組の弱視学級の新設にあたっては本当に皆さんにお世話になりました。

今年5月の連休が終わった時に、作業療法士の萩原先生から電話をいただきまして、「教育長、もう大丈夫！」と太鼓判を押していただきました。先ほど説明がありましたけど、全盲児の受け入れに向けて、この子のためにはどうしたらいいのか、大変でも特別支援学校の盲学校へ通学して点字を習った方がその子の為に良いのではないかなど、教育委員会でいろいろ議論したのを覚えています。

しかし、保護者から、一・二年生のうちは那須町の小学校で学ばせたいという強い思いがありましたので、町としても受け入れるためには最大限のことをしようということで、たくさんの方々との繋がりにより今日があるのかなと思います。

初めに受入れの可能性のあることについて校長に相談しましたところ、内村校長は、「良いですね。周りの子ども達にとってもプラスです。」と言ってくださいました。恵まれた環境だと思っています。二年間、または三年間ここにおいて、それから盲学校へ進むわけですが、今後も最大限にやれることをやってあげたいと思っています。これは、町長がいつもおっしゃっておられます「子は那須町の宝」であり、障害の有無に関係ないというお考えの基にあります。

こども未来課が教育委員会に入ったことでの成果は、目に見えないものだと思います。町長には作業療法士や、こども未来課に教育指導主事の配置について、他自治体よりも早く配置していただいております。それも学校教育を経験した指導主事を入れて頂きました。成果として、全体的に言えるのは10年後、20年後だろうな、教育とはそういうものなのだろうなと思っています。

これが当たり前、那須町においてはこういったシステムが当たり前で、いろんな子が学校に居るのが当たり前になる、そんな学校を目指していきたいと思っています。

今日はいろいろお世話になりました。今後もインクルーシブ教育について総合教育会議、定例教育委員会を通して逐一報告して行きたいと思っています。どうもお世話になりました。ありがとうございました。

議長：平山町長

では、以上で閉会になりますけれども、お子さん始め、今日皆さんに参加していただいて、私は那須町の皆さんを誇りに思います。これからもいろんな会があるごとに、那須町はこんなに素晴らしい教育の取り組みをしていることを、更にPRをして行きたいと思いますし、今、教育長がおっしゃいましたけれども、私は子どもが那須町の宝だと思いますので、もっともっと宝を磨きあげていければと思いますので、ご協力お願いして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

佐藤学校教育課長

以上で令和5年度第1回那須町総合教育会議を閉会といたします。

本日はありがとうございました。